

◎業界、企業研究

業界企業研究の本や会社の HP で取り組みや歴史などから①力を入れていること、②強みと弱み、③目指すものが何かを見るようにした。その企業で働くとしたら自分はどんな仕事をして、1～10年後どんな働き方をしたいか考えた。企業も面接やエントリーシートの中でそれを求めることもあった。

◎志望理由

業界企業研究から自分がその会社に入りたいこととその理由、自分の強みを含めて考えた。ブレインストーミングでその企業の魅力や他社との違い、そこでなければいけない理由を書きだして考えていた。どこでも聞かれることで志望度が分かる一番重要なところなので、ただ「好きだから」ではダメで、自分を売り込む説得力のある志望理由を持つべき。

◎筆記試験対策

四季報や筆記対策の本から企業が採用しているテストの種類を確認していた。私は筆記対策の勉強を始めたのも遅いし、勉強時間は短かった。最終の判断基準にもなるので 12 月中に通って勉強しておけばよかったと思った。

◎自己分析

普段からノートを一冊持って、ニュースを見たり普段の生活の中のちょっとした出来事や会話で感じたことを書き出して後からそれを見返すことで自分がどんな人間か、過去にも同じような経験はないか考えてそれも全部ノートに書き出していた。

◎ES の自己 PR

私は一切 ES の書き方などの本は読まなかった。学生時代に頑張ったことや華がある強みが何もないから読んでも参考にならないと思ったので。どんな素晴らしい経験をしたかだけでなく、何を学び、結果何に生き、今後もそれを生かせると言えればいいのだと思い、私は中学時代の部活の話をした。強みも粘り強さと明るさだと思ったのでそれを書いていた。

◎面接でどんなこと実施してたか

銀行の面接は雑談のような形がほとんどだったので「会話」することを意識していた。志望理由は必ず聞かれた。「志望理由は？」ではなく「ほかに受けている企業があるか？」などもある。ただ質問に答えるのでなく、「ほかに〇〇を受けているけど～だから御社が第一志望でこういう仕事をしたいと思う」のように答えていた。面接当日のニュース、株価、為替などは聞かれても分かるように確認していた。面接では話すことでなく、人の話を聞くことを意識していた。

◎企業の求める人材は

人事の方に聞いた話では、面接では「仕事を任せられる人間か、信頼できる人間か」が一番に見ているそうだった。

◎なぜ銀行か

初めは化粧品会社や食品会社の研究職を考えていたが、実際就活を進めていく中で、ここまで勉強してきたからこだわっているだけで、本当に研究がやりたいのか分からなくなってしまった。もともと様々な業種の説明会を聞いていて、銀行は様々な業種の企業と関わって経済を支える仕事であり大変そうだが魅力を感じ、企業相手の営業をしたいと思った。

◎最後に

リクルート面接で OB の方に「覚悟が足りない」と言われた。「働くのは簡単なことじゃないし、理不尽なこともたくさんある。人がいいだけでは病んでしまってダメになるんじゃないかと考えて企業は採用したいと思わない。やりたいことだけでなく、その仕事の厳しい面や大変さを考えて志望理由を練り直すべき」と言われた。その企業はその後の選考に進めなかったけど、そう言ってもらえたから、自分の企業研究がまだ甘いと思ったし、就活してるつもりで中途半端だったと気付けた。なので OBOG 訪問は積極的にやるべきだと思った。実際に働いている方にその仕事の大変さや喜びなどを聞くことで、働くイメージが持ちやすいく、志望理由を考えるのにも繋がると思う。